

# 令和6年度 第2回 協働のまちづくり活動支援事業選考会

## 1. えべつシェーネシュティンメン



### 事業の名称

えべつSchöne Stimmen演奏会「歌の花束」

～小松英典教授門下生による声楽コンサート～

### ◆事業内容

音楽に馴染みのない方や遠くへ出掛けにくい方達、子どもを含め、広く一般市民を対象に“ホール”から出て色々な地域・場所へ出向き、演奏すると共に、集った方達と一緒に歌うなどをして、芸術音楽の鑑賞・演奏を通し、親しみと楽しさを体験して頂く。

#### 【団体名について】

えべつシェーネシュティンメンという、大変面倒な名前だが、私たちの恩師である小松英典先生が名前を決めた。「シェーネ」はドイツ語で「美しい」という意味、「シュティンメン」は「声」という意味で、私たちの会の名前は「美しい声」という意味になる。

#### 【小松英典先生と当団体について】

小松英典先生はドイツ連邦共和国から名誉ある終身プロフェッサーを授与されており、ドイツ国内でも尊敬されている大先生である。ドイツに渡ってもう50年になり、現在もドイツ人の奥様とハンブルクで過ごしている。日本には主にコンクールの審査や演奏のために年に1回以上帰国するが、日本におけるドイツ歌曲会やオラトリオ会の第一人者である。

えぼあホールができたのが1998年で、1999年に演奏をしに来てくださり、それを機に私たちはご教授いただけることになり、江別シェーネシュティンメンという勉強会が始まった。

#### 【応募事業について】

今回の事業の名称は「江別シェーネシュティンメン演奏会 歌の花束 小松英典教授門下生による声楽コンサート」である。門下生といっても、演奏活動している演奏家、大学や高校の教員、合唱団の指導指揮者、また自宅で個人指導している専門家たちである。

#### <地域の課題>

現在様々な音楽が溢れる中で、芸術音楽に触れる機会が少ない。歴史に残る芸術文化を継承していく必要があると常々考えている。

小松先生も、ヨーロッパから日本の音楽界を見るととても奇異なことをしているように見え、ヨーロッパのあるべき姿に触れる真の音楽の美しさ、楽しさ、喜びを日本で伝えたいと考えていた。

#### <事業の企画の経緯>

1999年から個人への声楽指導だけでその思いを広めるのではなく、合唱を指導することでより多くの人にその思いが伝えられると考え、2016年から江別市民に公募して集まったメンバーで結成された「えべつカンマ—コア合唱団」がある。常に江別市で初演となるモーツァルトのレクイエムやフォーレの未作曲を演奏して活

動してきた。

そのことにより、合唱団員と多くの聴衆に感動の喜びを届けていると自負している。しかし、世界に蔓延した今回のコロナにより、芸術文化に触れる機会は一層少なくなり、家に閉じこもる人々が増えたように思われる。そこで今回、私たちはこのような皆様に寄り添った演奏会を企画した。

小松先生がこういう会を企画した時、ぜひ花を添えたいということで、出演していただけることになったが、先生のご都合が7月21日しか空いていなかったため、その日に会場を探した。江別市の公民館はどれもピアノのある場所が塞がっていたため、教会関係も考えたが、日曜日は礼拝がありダメだった。そこで教会の隣にある幼稚園のご好意で貸していただけることになり、のっぽろ幼稚園ホールで行うことになった。

### <対象者>

どなたでも良いが、特に音楽の好きな方、音楽にあまり馴染みのない方、遠くへ出かけられない方、小さいお子様など、すべての方を対象に行いたいと思っている。

### <事業内容>

音楽を身近に感じてもらえるように、お話を交えながら、特に小松先生はユーモアたっぷりに温かい話をされると思うが、音楽の面白みや、生の歌と声を身近に聞いてもらい、一緒に歌うなどして後世に継承していきたい歌も含め、真の音楽に触れながら皆様と和やかな時を過ごしていただきたいと考えている。

### <実施効果>

芸術文化の効果はなかなか数値で表すことはできない。しかし、参加してくださった方たちの世界観が広がり、音楽を身近に感じ、生活の中で芸術音楽にも親しんでもらえるようになればいいと望んでいる。

コロナの影響は大きく、特に歌好きの多くの方たちは楽しみを奪われてしまった。音楽の持つ力をこの演奏会で全身に浴びて、元気になってもらい、心豊かに過ごしていただけるようになればと思う。

### <事業を継続するための取組>

参加して下さる方たちに音楽の内容がよく伝わるような演奏を目指し、私たちは研鑽を積んでいかなければならない。そして、広報活動としてチラシやポスターなどを作成し、多くの方に足を運んでいただけるよう努め、さらに収支のバランスが取れるよう工夫して努力していかねばならないと思っている。

### 【収支予算について】

音楽にはお金がかかってしまい、収支のバランスが大変難しい状況にある。

まず、収入についてだが、お客様が100名入っていただければ、3,000円のチケットで30万円の収入が見込まれる。さらに、広告で協賛金を集めて、1口3,000円で10口分、合計3万円とする。収支の足りない分は私たち個人で負担することになり、14,500円をメンバーで分け合って出す。

次に支出の予算については、幼稚園を借りるので、会場費として15,500円がかかる。内訳はホール借用料が10500円、ピアノ使用料が2,000円、冷房費が3000円となっている。また、印刷費としてチラシ、チケット、プログラムの印刷費がかかる。交通費は、先生とピアニスト、もう1人の女性の東京からの飛行機代がかかる。会場とホテルの間の移動にはレンタカーを使用し、その費用も含まれる。宿泊費や小松先生、賛助出演者、ピアニストへの謝礼も支出に含まれる。総合計で344,500円となる。

## ◆質疑応答

### 【選考委員 A】

音楽は非常に幅広く、誰もが好きだと思う。ただ、ジャンルに関して言うと、今回は芸術音楽ということで、特に声楽となると、限られた人が対象になるように感じる。1人3000円のチケットで100人、つまり30万円の収入見込みだが、これはかなり厳しいように思う。その点についてどう考えているのか。

### 【発表者】

大変厳しい。なぜそうなったかという、日本の文部省の音楽教育が関係していると思う。小学校の音楽教育で、日本の伝統的な歌を教えていない。子どもたちはテレビなどで覚えた歌を歌うようになり、日本の美しい景色や心を表す歌が教育されていない。これにより、芸術音楽が馴染みのないものになってしまっている。そのため、私たちはそのような伝統的な日本の音楽を継承していくことが重要だと感じている。年に3回このような会を開いて、日本の良いものを伝えることを目指している。例えば「蛍の光」はデパートが閉まる時の音楽だと

思っている子どもたちもいる。国際的な会議でも使われる日本の美しい歌を日本人が知らないのは非常に悲しい。私たちは日本の良い音楽を継承していきたいと考えている。

【選考委員 B】

確かに、日本の古い素敵な歌が子どもたちに継承されていないのは悲しいことだと同感します。今回の質問は、収支予算について。3回予定されているが、これは1回目の7月21日の予算ということでしょうか。

【発表者】

はい、そうなっている。

【選考委員 B】

先ほどの話で、3000円で100人の予定ということだが、会場となるのっぽろ幼稚園ホールは100人収容可能か。

【発表者】

200名は可能。

【選考委員 C】

広報を工夫しないと集めるのは難しいと思う。そのあたりの戦略について説明してほしい。

【回答】

不特定多数に向けて広報するのは大変だが、ポスターやミニコミ紙、新聞などを活用し、できるだけ多くの人に知らせる。クラシックの演奏会では口コミが主。演奏者が自分の演奏を広めることで集客を図っている。文化にもう少し力を入れてくれればもっと良い結果が得られると考えている。

【観覧者 A】

一律3000円か。子どもや中学生、高校生でも一律なのか。

【発表者】

一般の方が3000円で、学生（高校生まで）が1000円。未就学者は無料。未就学者が入ってもいい演奏会とそうでない演奏会を分けて行う予定。

【観覧者 A】

じゃあ、今回は一般なのか。

【発表者】

一般と学生。幼稚園で行うが、未就学のお子さんも来るかもしれない。子ども向けの歌も歌えたらいいかなとは考えているが、まだ企画が固まっていない。

【観覧者 B】

協働のまちづくり活動として、音楽の教養を根付かせるのは悪くないが、趣味性が高すぎるのではないか。江別にコンサートホールがあるのに使えないというのも残念だ。

【発表者】

協働という点についてだが、市民に公募して合唱をしている。毎年、演奏会が企画された時に江別市民に呼び掛けて、みんなで音楽を楽しもうという活動をしている。だから、これも協働の部類に入ると思う。小松英典先生は江別から外に出る気はなく、札幌でやろうとは考えていない。江別市民に向けて活動しているので、まちづくり活動支援事業に応募した。

【観覧者 B】

コンサートホールは使えなかったのか。

【発表者】

その日は大麻の夏祭りといっぱいだった。公民館の研修室も探したが空いていなかった。先生がその日しか空いていなかったの、こうなった。

【観覧者 C】

内容は声楽やピアノ演奏だけでなく、説明も多く入るのか。

【発表者】

音楽をよく理解してもらうために、歌の説明や楽しい音楽に関する話を交えながら進めたいと思っている。

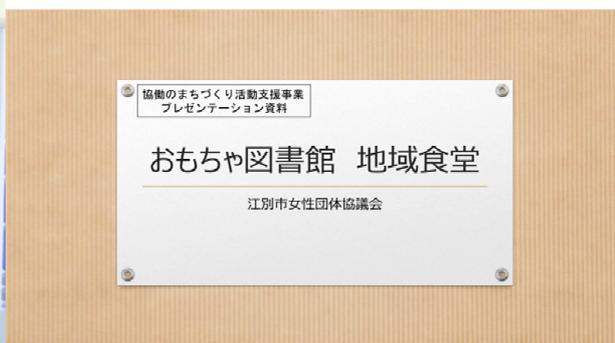
【観覧者 D】

小松英典教授について初めて聞いたが、その人の魅力をもう少しアピールしてほしい。

【発表者】

小松先生について説明する。小沢征爾さんという有名な指揮者がいるが、小沢さんは本物でなければ共演しない人だ。小松先生は小沢さんに頼まれて歌ったことがあり、小沢さんは 100 万円を出して小松先生に歌ってもらったこともある。それだけの実力を持った先生である。

## 2. 江別市女性団体協議会



### ◆事業内容

主に子育て中のお母さん、子どもや高齢者を対象に、「地域食堂」あそびと食べることを通して交流をする。誰もが参加できる居場所づくりをする。

#### 【団体の紹介】

江別女性団体協議会とは、昭和27年4月に婦人の社会参加を目指して結成され、昭和51年に江別婦人団体協議会と改名し、平成14年には婦人団体から女性団体に名称を改めている。

主に研修、情報、環境、少子高齢化、青少年を育むための学習と実践を目的としている。会員数は、現在1万8923人であり、事業では、研修会、江別女性協まつり、女性大会、市長懇談会に加え、昭和63年よりおもちゃ図書館の事業を進めている。これまでの活動が継続できたのも、女性協の役員や多くの皆様の理解と支援のおかげである。

#### 【おもちゃ図書館について】

おもちゃ図書館は、支援を必要とする子どもたちにおもちゃの楽しさを提供しながら、みんなで共にゆったり遊べる居場所であり、おもちゃや本の貸し出しも行っている。昨年、おもちゃ図書館は35周年の表彰をいただき、今年は37年目を迎えるにあたり、新たな試みとして、地域交流の一環として地域食堂の実施に向けて準備を進めている。

#### <日頃の活動>

全体会議を年3回、在庫整理を年1回、運営委員会を年1回行い、構成人数は10名で、委員長におおさ認定こども園の園長、のっぽろ幼稚園園長、江別市保健センター長、江別市手をつなぐ育成会理事長、江別市健康福祉管理課長、江別市子ども家庭子育て支援課長、子ども発達支援センター長、参事、江別市教育委員会生涯学習課課長、江別市社会福祉協議会事務局長が運営に関わっている。レジャーライブラリー、全体研修、クリスマス会を行っている。おもちゃ図書館の開設日は毎月第1、第2、第3、第4の土曜日の10時から12時で、午後の開設は第4土曜日の13時から15時まで行っている。場所は江別市総合社会福祉センター2階のボランティア室で、利用は無料だが会員登録が必要。

#### 【応募事業について】

世代を超えて高齢者と子どもたちが交流する場がまだ少ないと感じている。そこで、新たなニーズに応え、地域食堂を通して居場所づくりを行う。おもちゃ図書館を運営していることから、おもちゃや絵本、紙芝居を活用し、ボランティアもいることから運営が可能。

#### <目的>

子どもが少なく高齢者が多い社会において、地域協働体も変わりつつある中、子どもの居場所だけでなく高齢者の居場所づくりも必要とされている。女性協だけでなく、老若男女がボランティア活動に参加し、家族や一人親世帯の子どもたちにとっては良き触れ合いの場になる。多様性を持って、人と人の交流を大切にして、活動を進めていきたい。また、災害時に役立つ取り組みを地域食堂で実践し、活かしていくことも目的として

いる。

### <実施日>

8月24日 旧町村農場  
9月14日、12月7日 江別市総合福祉センター2階 各土曜日

### <対象者>

地域の高齢者、子育て中の父母と子どもで、誰でも参加可能。

### <内容>

おもちゃや絵本で一緒に遊び、食事を共にして交流する。また、ボランティアの紙芝居に加えて、講師を招いて手品や人形劇も企画している。

### <実施効果>

核家族化により子育ての不安を抱える方にとってホッとできる居場所になる。高齢者にとっても子どもたちの笑顔から元気をもらえる。

### <事業継続のための取組>

案内ポスターやチラシを作成する。

参加費については、8月24日に行う縁日で景品を提供するため、お子さんには1人100円をいただく。そして、食事代は子どもが無料で、大人は200円をいただき、運営資金とする。また、多くの協力者を巻き込んで継続していきたいと考えている。地域食堂には、食べ物の生産者が作ったものが廃棄されることが多いが、その部分をうまく活用し、子どもたちを育てていく中で役立てたいと考えている。

### <レジャーライブラリーについて>

皆様の手元にある8月24日のレジャーライブラリー開催についてだが、急遽、旧町村農場で開催することが決定した。旧町村農場は子どもたちのあそび場を提供されており、その場所を借りて読み聞かせや縁日を行う。テントを張り、皆さんで縁日の準備をし、子どもたちを遊ばせる予定だ。その際、地域食堂としてカレーライスを提供したいと考えている。ただし、暑さの関係で食中毒の心配があるため、パンを提供することも検討中。会議の中で、カレーライスには芋を入れない形で工夫する方法も考えている。

#### 【収支予算について】

収入は自己資金17万5000円に加え、大人150名から200円の参加費で計3万円、合計20万5000円の予算を立てた。

支出の部については、報償費3万円、講師5名に対して各2000円、旅費1万円、印刷製本費2万4200円、事務通信費3万円、消耗品費2万円、食料費5万円、備品費4万800円、合計20万5000円となる。

### ◆質疑応答

#### 【選考委員 A】

健常の方とそうでない方の交流は、小さい年齢からの方が大きくなっても垣根が低く、多くの交流ができると差別化を防げると思う。ぜひ今後も継続して運営してほしい。収入のその他が3万円となっているが、これは8月24日のみのことか。支出は3回分の補助ということか。

#### 【発表者】

その他の3万円は、収入に関して3回分を考えている。

#### 【選考委員 B】

江別女性団体協議会は非常に多方面で幅広く活動していると認識している。その中で、おもちゃ図書館と新しく加える地域食堂を補助対象として選んだ理由は何か。

#### 【発表者】

選んだ理由だが、おもちゃ図書館は市の助成もいただいている。社会福祉協議会からも助成を受けているが、共同募金の配分が少なくなり、5万円ほど削減された。そのため、8月24日をレジャーライブラリーという

名目で考えていたが諦め、今回はクリスマス会一本に絞ることにしたところで、この応募の話があり、ぜひ申し込んでみようということで皆から応援を受け、このプレゼンに出させていただいた。

#### 【選考委員 C】

私から 2 点質問する。

1 点目は運営主体のことだ。先ほど、おもちゃ図書館の運営に 10 名が関わっていると話していたが、会員で運営しているのかと思ったがそうではないようだが、地域食堂はどう運営するのか、その体制を教えてください。

もう 1 点は、地域食堂のコンセプトについて、これから続けていくなら、毎回演者を呼ぶのはどうかと思う。地域食堂をどのようなコンセプトで運営していくのか教えてください。

#### 【発表者】

まず、運営委員の皆さんについてだが、おもちゃ図書館の運営にあたって長年参加している運営委員がいる。この 10 名の方々が運営の管理している形で、おもちゃ図書館の運営は会員が実際に行っている。地域食堂も同様に会員やボランティアを募って進めていく予定だ。おもちゃ図書館は、障がいのある方を中心にしてきたが、今後は健常者も含めて活動を進めていきたい。

地域食堂については、地域の子どもたちや高齢者を対象に、会場は社会福祉協議会を中心に運営する。旧町村牧場が改装され、子どもの遊び場もできたので、教育委員会と相談して使用許可を得た。レジャーライブラリーをここで開催し、多くの方々に参加してもらいたいと考えている。地域食堂は核家族化や片親家庭が江別市内で多い中で、食育を通じて地域の支援を行いたいと思っている。

#### 【観覧者 A】

女性団体協議会の皆さん、お疲れさまです。私もおもちゃ図書館に関わっていたことがあるので、この事業について気になったことがある。

まず、おもちゃ図書館の目的。おもちゃ図書館は支援を必要とする子どもたちのために運営している。会長の話を聞くと、今後は健常者も含めてやっていきたいということだった。この事業についてだが、レジャーライブラリーは例年行っていることで、経費の目処が立たなくなったので、地域食堂を併設して進めていくというふうに聞こえた。しかし、おもちゃ図書館は支援を必要とする子どもたちのための図書館が根本であることを忘れないでほしい。支援を必要とする子どもたちが安心して遊べる場所であるべきで、地域食堂を開いたことで、子どもたちが萎縮してしまわないように願っている。

本来の目的を忘れずに運営してほしい。たくさん人が集まることだけが良いわけではないので、その点を踏まえてやってもらいたい。食を通して色々な活動ができるのは和やかになると思う。無理をせず、できる範囲内でしてほしい。あくまでおもちゃ図書館を大事にしてほしい。

#### 【発表者】

実は先日、運営委員会があり、ボランティアの方も全員参加してもらって、1 年の活動を報告する場があった。今おっしゃっていただいたように、支援を必要とする子どもたちを忘れないで運営している。

町村さんの施設を使うことについても、健常者と障がいのある方が両方並行して利用できるように考えている。お金がないから地域食堂を始めるわけではなく、食を通して子どもや大人、高齢者が元気をもらえる場を提供したいと考えている。

江別市のおもちゃ図書館は障がいのある子どもたちを中心に運営しているが、デイサービスの利用が増え、おもちゃ図書館に来る子どもたちが減ってきたが、それに対応するためにも健常者も含めて活動を広げていきたい。将来、健常者と障がいのある方が社会で隔たりなく生活できるように、少しずつ準備を進めている。基本的な方向性を間違えないように進めていきたいので、もし問題があれば指摘していただいて軌道修正していく。

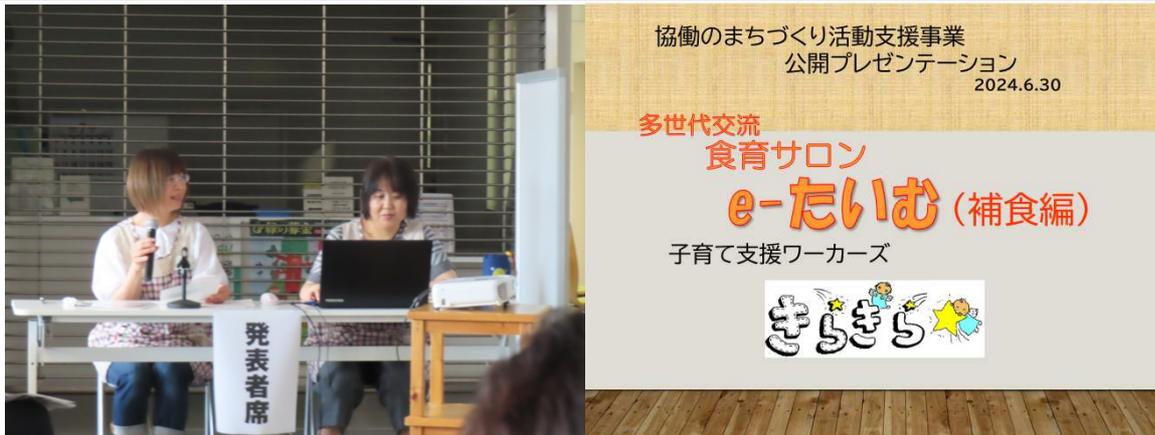
#### 【観覧者 B】

町村農場活用のご提案いただき感謝している。

実は 3 年前に牛舎が壊れて改修したが、その使い道がほとんど決まっていない。私もボランティアで委員会に参加しようとするか話し合った。先日、リニューアルオープンのセレモニーを行ったが、ここに注目していただいた

点について感謝している。ぜひ成功してほしい。旧町村牧場の利用実態は非常に低いが、注目を集める機会になると思うので、ぜひ頑張ってほしいと思っている。

### 3. 子育て支援ワーカーズきらきら



#### ◆事業内容

地域で暮らす、主に子育て中のママとその子どものために、親子にはおもちゃのあそびを提供、大人には折り紙やボードゲームを用意し、手作りお菓子でホッとお喋りを楽しんでいただきながら、3度の食事の補食となるミニ講座を開き食の大切さを考えてもらう。

#### 【団体の紹介】

きらきらは2005年に設立し、江別市内で保育や親子が気軽に集えるひろばなどの活動を通じて、地域に求められる子育て支援を行うことを目的に活動している。

事業として、市からの委託業務である親子ひろば、ほこあぼこの受付、併設している託児ルームきらきらの運営、個人宅に訪問して行う個人保育、講演会や演奏会の際のお子さんを預かる集団保育などがある。

地域活動としては、毎週月曜日に親子の居場所づくりとしてひろばを提供、第2火曜日に多世代が集える場としてココルク江別の施設内で4年目になるCoCoカフェを開催。新栄会館で行っている第3水曜日のe-たいむはもう8年となる。地域の祭りにも参加するなど、地域活動にも力を入れている。

#### 【応募事業について】

##### <事業の企画の経緯>

- 1.これまで10年間、託児ルームを運営してきた中で、ママたちが子どものおやつについて難しく考えすぎているか、または添加物を気にしていないのか、安易に市販のチョコやグミなどを低年齢のうちから与えていることが見受けられた。
- 2.子どもにとってのおやつは朝、昼、夜のご飯の補食となる大切な部分、そこを楽しく伝えていけたらと思い、これまで大人にお茶とお茶菓子を提供してきた多世代交流サロンeタイムを、新たにお子さん用のおやつを提供したり、食育講座の講師を招いて行ったりする多世代交流食育サロンeタイムとして生まれ変わらせたいと思った。
- 3.手作りおやつは大変だと思い込んでいるママには、簡単で栄養も取れ、短時間で作れる経済的なおやつを伝えることで、ママの負担感を軽減し、育児への満足度も高まると考えている。

##### <事業内容>

- ・この8年で、それが年配の方々の張り合いにもつながる様子を見聞きしてきたので、新しい取り組みとして、手作り☆おやつでホッと、おしゃべりを楽しんでもらいながら、そのおやつが決して手間ではないことを伝えたい。一工夫で大人向け、子ども向けに変身し、子どもにとっては3度の食事を補う大事な補食になるというミニ講座を盛り込み、食の大切さについて考えてもらう。

##### ☆おやつ

- ・手作りの蒸しパンやクッキーなどを検討中で、おやつの種類によっては大人用と子ども用を分けて子どもには補食にもなるおやつを提供する。
- ・どこに住むどんな方でも参加できて、誰もが楽しめるように、親子にはおもちゃを用意し、大人には折り紙やボードゲーム、時には手作りのおもちゃの制作を手伝ってもらうなど、手を動かすことも用意して、一緒に子育て支援に関わってもらおうと思う。

《具体例》

**1.ひと月おきくらいに友の会などに出前講座を依頼し、1 時間の中で半分を講座、半分を実際の調理に充てる。**

新栄会館には調理室があるので、夏には涼しげなゼリー、冬にはお湯を注げば味噌汁になる味噌玉作りを親子で楽しんでもらうことを考えている。

※講師を招かない月は、スタッフが簡単にできるものを紹介する。

例えば、サツマイモを茹でて潰し、きれいに盛り付ければスイートポテトに、栗の甘露煮を入れれば栗きんとんに、レーズンを加えることでさらに栄養価が増すなどを紹介する。

**2.講座やスタッフが紹介したおかしは、レシピとして渡す予定**

簡単なレシピをお渡しし、リングをつけて毎回綴ってもらうことで、最終的にレシピ集が出来上がる楽しみも考えている。

これらは主に子育て中のママとその子どもたちのためだが、食については大人にも応用できることばかりだと思っている。地域に暮らす全ての人のために取り組む。

食事は1日3回、毎日続く大仕事、料理が苦手なママだと大変苦しいものだと思うが、料理は手軽で、手抜きでもちゃんと栄養が取れると伝えられたら、ママたちの気持ちに余裕ができ、子育ての不安解消の手助けになると考えている。

- 開催場所：錦町にある新栄会館  
今までの e-タイムと同じ場所、同じ日程で開催し、馴染みがあって集まりやすいと考えた。
- 開催日：第 3 水曜日（年に 1 度お祭りも予定）
- 広報：チラシやポスター等  
団地会館やひろば、託児ルームで配布し、SNS も活用して広く周知する。  
開催日にはのぼりを掲げる。

**<自分の団体だからこそできる点>**

- ・食に関心があるメンバー 15 人全員が江別市の緊急サポートネットワークの提供会員であり、提供会員研修で子どもの食と栄養について学んでいるため、ママたちに共感しながらも適切なことが提供できると考えている。
- ・この 20 年間の活動を通じて、様々な市民団体とのつながりもあり、食の得意な団体の協力も得られる。

**<事業を継続するための取組>**

<p>これまで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●参加費 100 円</li> <li>●飲み物等のおかわり代 無料</li> </ul>		<p>これから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●参加費 200 円 理由：運営資金のため</li> <li>●飲み物等のおかわり代 50 円 理由：無料だと遠慮される方も多いため</li> </ul>
--	---	--

**【収支予算について】**

収支予算についてはご覧の通り、地域の活性化と子どもたちのために、この事業への理解をよろしく願いたい。

収支予算（収入の部）				収支予算（支出の部）				
区分	予算額	説明（借入金、補助金の名称等）		区分	予算額	単価	数量	説明（名称、区間、支払先等）
自己資金	137,655			報償費	25,000	5,000	5回	講師の方への謝礼
借入金				旅費・交通費	3,500	700	5回	江別市内講師の方の交通費
補助金・助成金				交通費	28,000	700	40名	スタッフ4名×10回分
国				印刷製本費	5,000			チラシ印刷として
道				消耗品費	51,150			エプロン、滑り止め付きトレイ、シリコンマット、スプーンフォーク、お皿、紙コップ、消毒液、紙ナプキン、用紙、リング
市				食糧費	47,000			飲み物8000食材10000味噌玉9000 イベント分20000
その他				役員費	8,505		21	保険代21円×35名×9回 おまつり分として21円×90名
参加費	30,500	200円×10名×9回 おまつり500円×25名		合計	168,155			
合計	168,155							

※申請額は112,000円

## ◆質疑応答

### 【選考委員 A】

今、小さい子どものおやつはとても問題だと思う。合成着色料がたくさん入ったグミなど、手軽に買えるものはコンビニにたくさんあるが、家で簡単に代わりになるものも作れる。そういった知識が広がることはとても大事だ。この補食の部分についてはすごく応援したい。

今の説明だと、月に一度だけ、第3水曜日に多世代サロン e-たいむで補食の日という形で捉えていいのか。予算案は年間10回の補食の日の収支予算ということでよいか。

### 【発表者】

わかりづらく申し訳ない。今まで毎月行ってきた e-タイムをまるっきり変えるつもり。場所は同じだが、新たな事業として発展させる形で、多世代交流食育サロン、e-たいむにしようと思っている。7月から始めると9回、あと1回はお祭りで10回になる。5回ほど講師を招きたいと計画している。

### 【選考委員 A】

もう一つ、見込みの人数と会場の広さについては問題ないか。

### 【発表者】

今までも8年間開催してきたし、新栄会館は広いので、問題なく90名ほど入れると思う。

### 【選考委員 B】

もし定員を超えるほど集まったらどうするのか。

### 【発表者】

それはありがたいこと。廊下の部分も広くて明るい空間なので、そこも使って別のイベントもできる。問題なく対応できると思う。

### 【選考委員 C】

私も、広い年代を対象とした地域サロンに工夫を加えて、子ども用の補食としてのお菓子作りは素晴らしいことだと思う。ぜひ成功させてほしい。技術的な質問だが、江別市の委託事業と含めて年間で1,000万円を超える決算がある。この中で食育サロン、e-たいむの予算は自己資金が13万7000円とあるが、決算資料や予算資料から読み取れない。技術的な部分に何かあるのか。

### 【発表者】

江別市からの委託事業でほこあぼこを任されており、それが800万円くらい。他に個人保育や集団保育での収入もある。

### 【選考委員 C】

それらの利益を運営費用に回しているのか。

### 【発表者】

はい、託児ルームで1時間300円いただいている分もある。

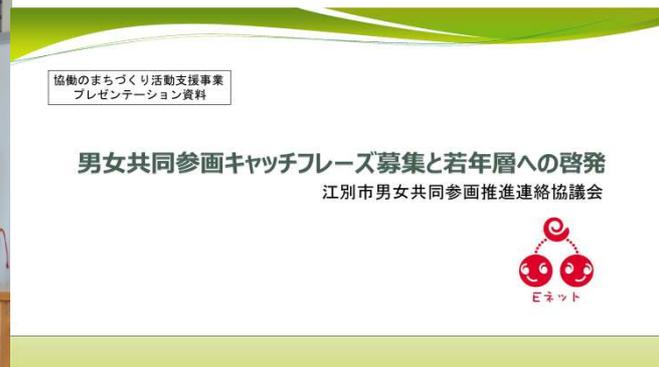
### 【観覧者】

アレルギーに対してはどうか対応しているか。

### 【発表者】

アレルギー対応もしているが、しっかり勉強して対応していく。

## 4. 江別市男女共同参画推進連絡協議会



### ◆事業内容

市内中学生を対象に、若年層へ啓発活動を広げるきっかけとして「標語」を募集し、協議会ニュースに掲載や啓発活動に活かしていく。

#### 【団体の紹介】

当協議会は2001年に発足した。男女共同参画社会の実現と普及を目指し、行政とのパートナーシップを保ちながら、会員相互の連携および情報交換を行うことを目的としている。令和6年度現在、団体会員数は18団体、個人会員は33名。

昨年度の事業内容について少し説明する。私たちは毎年、各種研修会や学習会の開催を行っている。この研修会や学習会は協議会会員だけでなく、市民も気軽に参加して学べる機会として、各公民館にチラシやポスターを掲示してお誘いしている。また、連絡協議会ニュースを年2回発行している。このニュースは、こぶらっとも置いている。男女共同参画セミナーは江別市と共催しており、昨年度は初めての試みとして「さんかくまつり」の開催も行った。一気には変わっていないが、ここ何年か子育てに男性も参加してきているが、男女共同参画の必要性を訴えてきたことが成果として現れていると感じている。

#### 【応募事業について】

##### <地域課題>

昨年の「さんかくまつり」で、DV被害者支援現場からの講演会を行った。苫小牧市ではすべての中学校でデートDVの出前講座を行っているという話を聞き、私たちもこれまでは大人目線での周知を図っていたが、若年層への周知の必要性を感じた。男女共同参画社会は若い世代から考えていくことが重要だと再認識した。

##### <事業内容>

毎年内閣府は男女共同参画週間にキャッチフレーズを募集しており、私たちも、この協議会ニュースの冒頭に男女共同参画をより分かりやすく捉えてもらいたいと思い、昨年度の内閣府のキャッチフレーズ「みんなで作る、みんなの未来」を使った。この言葉を通じて、男女共同参画に繋がっていることをわかりやすく伝えたいと考えた。だが、自分たちのニュースに市民の声も載せるために私たちも内閣府の取り組みに倣い、中学1年生を対象にキャッチフレーズを募集することにした。

スケジュールは夏休み明けから2週間、市内全中学1年生からキャッチフレーズを募集し、11月16日に予定している「さんかくまつり」で展示、表彰する。2月発行の協議会ニュースにも掲載する予定。若い世代から男女共同参画を身近に感じてもらうことを目指している。

##### <今後の取り組み>

今年度は研修会などのいろいろな啓発活動にキャッチフレーズを活用し、連絡協議会の様々な啓発事業にも取り入れる。

来年度以降もキャッチフレーズを毎年募集し、協議会ニュースに掲載する予定。協議会ニュースは各公民館に配布し、誰もが手に取れるようにする。

### 【収支予算について】

自己資金 6 万 3 1 0 0 円だ。協議会は団体会員と個人会員の会費で運営されており、この事業の予算は大きな枠を占めている。

印刷製本費は中学 1 年生を対象に全中学校へ 1300 枚のチラシおよびポスターを配布するための費用。入賞者の横断幕も用意し、大々的に宣伝するための予算は 2 万 8,000 円。1 1 月 1 6 日にここ、ぷらっとで行う「さんかくまつり」で、入賞者 10 名に対して図書券を 1 人 2,000 円分用意し渡すための予算を計上している。図書券 2,000 円では本 1 冊程度だが、男女共同参画を学ぶ機会として関連の本を購入してもらいたいと考えている。

### ◆質疑応答

#### 【選考委員 A】

デートDV根絶を目指して若い人への啓発活動は大変良いことだと思う。講演会でその発想が出たことは、非常に良かったと思う。ただ、初めての取り組みだから仕方ないかもしれないが、標語の募集のみというのは少し寂しいと感じる。例えば、なぜその標語を選んだのかを聞き出すとか、若い人たちが男女共同参画についてどう考えるのかを聞いてみるなど、工夫があると良いと思う。また、次年度以降には国が設定している男女共同参画の目標に対して、若い人たちの意見を募るなどの取り組みも考えてみてはどうか。

#### 【発表者】

今後活かせる参考になる意見を頂きありがたく思う。

#### 【選考委員 B】

子どもたちにも意識を持って考えてもらい、成長してもらいたい部分だと思う。江別市では中学 1 年生を対象にしているが、私は高校生も中学生もみんなに考えてもらいたいと思う。中学 1 年生を対象とした根拠は何か。

また、応募された標語をどう周知するか。7 月、8 月の夏休みが終わってから 2 週間で応募し、11 月に結果が出るまでの間がもったいないと感じる。良い標語は早く伝えてもらいたいと思う。

#### 【発表者】

なぜ中学 1 年生を対象にしたかという、江別市は今年度男女共同参画基本計画を策定した。中学 1 年生の子どもたちが 10 年後、大人になって社会人になった時に、自分たちが思い描いた男女共同参画社会、そのキャッチフレーズがどう生かされてきたかを検証する場でもあると考えている。社会人になった時に「あの時キャッチフレーズを募集したな」ということが実生活で思い出される日が来ると思う。中学 1 年生に考えてもらうことで、社会人になった時に直面する問題を意識し、10 年間の検証期間を持つことができる。

周知の手段については、会費のみで運営されているため、年 2 回の情報誌の発行が精一杯で、周知の機会が限られている。18 の加盟団体にも協力を呼びかけ、子どもたちのキャッチフレーズを広めるよう努めていくつもり。

#### 【選考委員 C】

いくつかあるが、まず中学 1 年生を対象にしたことについて。苫小牧市の場合は出前講座なので、まず知ってもらうという点で良いと思うが、いきなりキャッチフレーズを集めても難しいかもしれない。その時に副読本のようなものがあると良いと思う。予算がないのは理解するが、どういう説明を付けて募集をするのかは重要だと思う。また、広報の方法も協議会ニュースだけでなく、江別市広報やまんまる新聞など無料で掲載してくれるものを活用するのが良いと思う。さらに、横断幕に 2 万 8000 円もかけるのはどんなイメージなのか。毎年使うために 2 万 8000 円かけるのか。

#### 【発表者】

応募していただいた 10 人の方を入賞者と捉え、応募のキャッチフレーズを横断幕に表示し、さんかくまつりの時にお見せしたいと考えている。それは今回のみだ。

#### 【選考委員 C】

それだけお金をかける意味があるのかという話も出た。お祭りの時だけでなく、1 年間各中学校に 1 つずつ貼ってもらうとか、2 万 8000 円を使うより、例えば図書券を全員に配る方が良いのではないかという意見もある。

**【発表者】**

初めての取り組みということで、皆さんに見せることも大事だと考えている。見える化は重要だが、協議会ニュースを市民の方に見てもらうのは難しい点もある。今回キャッチフレーズを宣伝も兼ねて行いたい。

次年度からは横断幕は作らないので、今回は宣伝効果と捉えてほしい。各学校に貼るという提案は良いアイデアだと思うので、ぜひそうしたいと考えている。

**【観覧者A】**

男女共同参画推進については理解しているが、市の協働事業に応募する理由が理解できない。市では男女協働参画推進のための予算が計上されているはずで、まず市の予算に求めるべきではないか。みんなが出し合って会費だけでやっているのは理解しているが、いきなり協働事業に金を求めるのは無理があるのではないか。

**【発表者】**

とても心強い意見だ。現在、私たちは会費のみで活動を行っているので、現在はこういった手段しか実現できない。ただ、市と一緒にやっていたら良いという思いもあるが、今年度は協働のまちづくりとして応募した。

市に要望を出すことも一つの方法だと考える。検討する。